

(様式2)

議員行政視察報告書

議 員 名	沼崎 雅之
視 察 地	愛知県
視察年月日	令和6年1月16日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
愛知県新体育館建設について	
旭川市においては、花咲にある旭川市リアルター夢りんご体育館（市総合体育館）の老朽化に伴う建て替えを予定している。そのため、先進的な事例に学ぶことで新体育館がより良いものとなることを目的に視察を行った。 愛知県名古屋市に建設中の愛知国際アリーナは、2026年のアジア大会開催もねらいとして国際大会や全国レベルのイベントの拠点となるよう最新鋭の施設を整えているほか、建設方式がPFI手法「BT コンセッション方式」を採用しており、地元建設業界から関心も高いと聞く。規模において旭川市新体育館よりもはるかに大きなものであるが、学ぶべき点があると考え視察先を選んだ。 結論としては、旭川市での「BT コンセッション方式」採用は難しいと考える。理由として、建設費から利用料収入等を差し引くにあたり、大きな収入が見込めるコンテンツの恒常的な誘致が最大の課題であり、既に大きなイベントや大相撲名古屋場所などが開催されておりブランド力のある大都市だからこそ可能な方式と感じた。 学ぶべき点としては、NBLとも関係の深い米国企業Anschutz Sports Holdingsなど魅力的なコンテンツを呼び込める民間企業との連携や、従来の体育館のアリーナと同規模のサブアリーナを併設することで従来規模を求めるニーズにも対応するなど、旭川市でも同様の取り組みが必要ではないかと感じた。この点について、1月18日に三重県津市のサオアリーナを視察する上で貴重な問題意識を得られた。	

(様式2)

議員行政視察報告書

議 員 名	沼崎 雅之
視 察 地	三重県伊勢市
視察年月日	令和6年1月17日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
----- バリアフリー観光について 古くから多くの参拝者が集まる伊勢神宮を擁する伊勢市では、20年以上前からバリアフリー観光に力を入れており、多くの観光客が楽しめるほか、パラスポーツも盛んになるなど大きな成果を上げている。旭川市もパラスポーツが盛んであり、観光との相乗効果を上げるうえで参考になると思われた。 伊勢市では、NP0 法人伊勢志摩バリアフリースターセンターが20年以上にわたりバリアフリー観光推進に取り組んでおり、民間主導で進んできた歴史がある。平成23年からバリアフリー観光事業として宿泊施設のバリアフリー改修補助や接客力向上を支援する予算措置も市の独自財源でなされている。物理的な障壁除去だけではなく、手話による観光ガイドボランティア研修や、実証実験段階ではあるが通信機能付きカメラを利用した視覚障害者への遠隔音声案内など、感覚器への障害にもきめ細かに対応していることを伺った。また、平成26年にウェブサイト「伊勢バリアフリー」を構築し、市内のバリアフリー対応情報が一覧できることに加え、自分が必要とする情報を地図に落とし込んだ専用マップを作製できるなど、ICTの活用にも先駆的である。 こうした取り組みが実り、令和元年には内閣府の「共生社会ホストタウン」に県内初登録され、さらに令和3年には東海地方初の「先導的共生社会ホストタウン」認定も受けており、2020年東京オリパラではラオス選手団を受け入れている。旭川市においても、「共生社会ホストタウン」登録を目指して環境整備をしていくことが大きな宣伝効果を持つのではないかと感じた。 また、神社など文化財や宗教施設としての一面も持つ施設にはバリアフリー改修が困難なケースも多いことについて尋ねると、市民の意識も高く、人力で参拝を介助する有	

償ボランティア「伊勢おもてなしヘルパー」制度などで対応しているとのこと。神社側、市民側双方に行政が丁寧に説明をして理解を得ているほか、トヨタ自動車と連携して石段を昇ることができる車いすの実証実験を今後計画しているなど、新たな取り組みを積極的に行っている。伊勢神宮という大きな観光資源を持ちながら、胡坐をかかない姿勢は大いに学ぶべきと感じた。

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	沼崎 雅之
視察地	三重県津市
視察年月日	令和6年1月18日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
サオリーナ建設について	
平成29年に竣工した「サオリーナ」（地元出身の吉田沙保里選手にちなんだ名称）は、メインアリーナ4000人収容と、旭川市が建設を目指す新体育館の規模に近く、また自治体規模も人口27万4千人（四日市市に次ぐ県内2位）と旭川市に近いため参考になると考え視察を行った。 メインアリーナのほか、サブアリーナ、トレーニングルーム、武道場、屋内プールなど必要とされる施設が一通りあるほか、キッズスペース、キッチンカーも入れる屋外展示場、会議室など各種イベントにも活用できる設計であり、段差やトイレなどのバリアフリー設計も最新の施設にふさわしく対応されている。産業コンベンション施設と併設のため、スポーツイベント以外の活用も多いと伺った。 施設利用者の96%が車での来場であるため、駐車場も大規模であることに加え、災害時にはドクターヘリの離着陸も想定しているとのことであった。 特に印象的だったのが、ミズノ株式会社を指定管理者としており、スポーツイベントの誘致に力を発揮しているほか、子供たちも学べるスポーツ教室の講師にアスリートとして実績ある方々を選任するなど、国内トップのスポーツ関連企業の強みを生かしている点であった。加えて、利用者に対するアンケート「施設の通信簿」を紙またはオンラインで毎年度実施して結果を公表するなど顧客満足度にもこだわりを持つなど、民間の手法が生かされている。旭川市において、今後の指定管理者選任において重視しなければならないと感じた。 建設費については、東日本大震災の復興需要等もあり資材価格高騰や労働力不足があり入札不調が相次ぐなど苦労があった旨も資料を基に伺った。旭川市が新体育館を建設	

する上でも同様の課題があると考えるが、万難を乗り越えて建設された「サオリーナ」が活況を呈している現状は成功事例として大いに学ぶべきものであった。